

超高速インターネット衛星(WINDS) を用いた災害時対応

【被災地で活動する災害対応応援部隊と派遣元間の通信支援】

情報通信研究機構
秋岡眞樹 高橋卓

3月14日～20日 緊急消防援助隊活動の支援

東京消防庁本庁(大手町) ⇔ 気仙沼防災センター・気仙沼消防署
気仙沼市で活動する東京都隊との間の通信回線を提供

3月20日～4月6日 災害派遣活動の支援

航空自衛隊入間基地 ⇔ 航空自衛隊松島基地



▲ 3月15日、気仙沼消防署から市内方向を望む。気仙沼で活動開始したときには、市内の大規模火災はまだ鎮火しておらず、消防ヘリによる空中消火も続いていた。

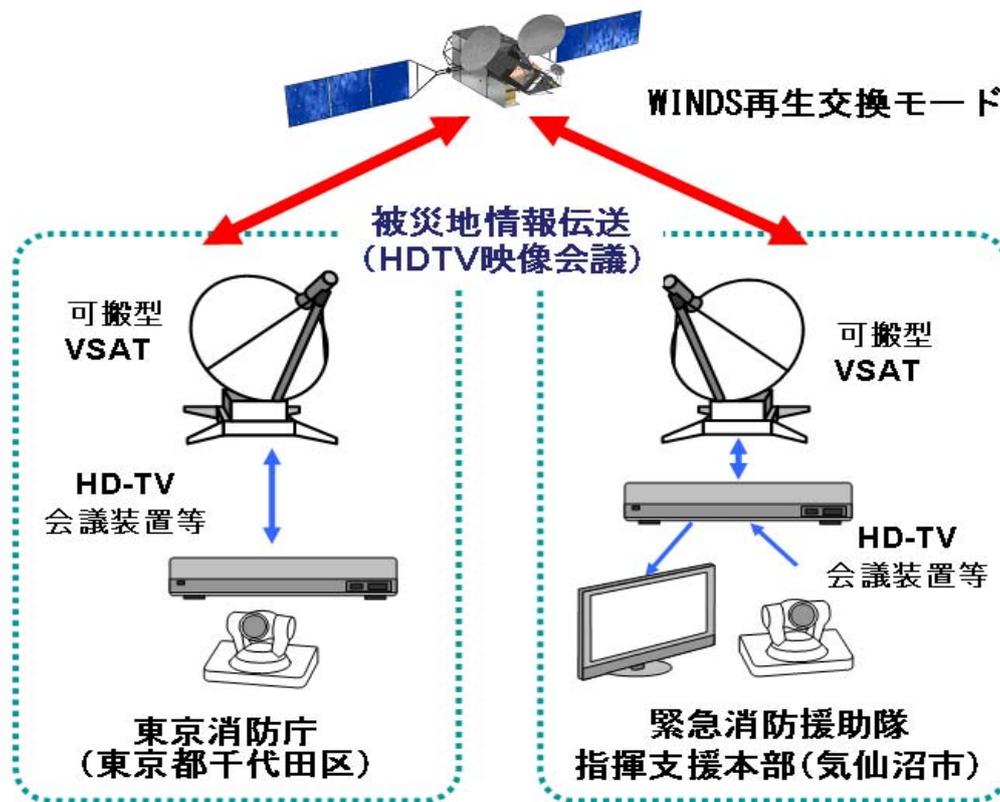


▲ 活動場所である防災センター(消防署)から港湾部を望む。港湾部周辺が壊滅的被害を受けていることや、船舶、大型トラックなどが流されている様子がわかる。

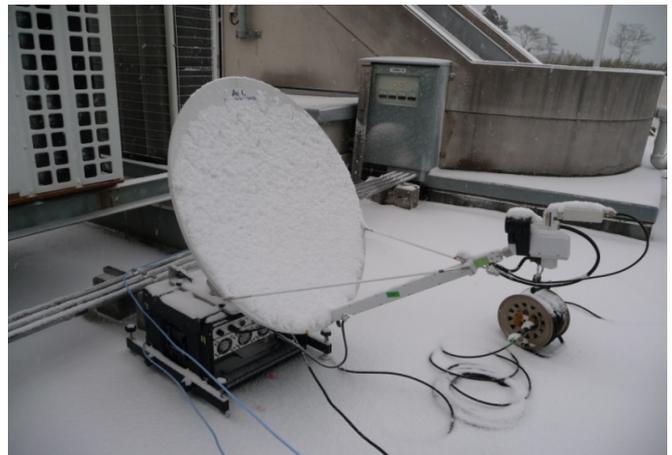


▲ 3月20日の気仙沼中心部の様子。道路啓開のため路肩に積み上げられた瓦礫と道路。道路は通行可能だが、信号は動作していない。

気仙沼市における緊急消防援助隊の活動支援



▲ 大手町の東京消防庁と現地指揮支援本部間に51Mbps衛星回線で接続、テレビ会議、IP電話、高精細カメラ等を設置。



▲ 気仙沼市及び陸前高田市で指揮支援及び救助活動を行う東京都隊の活動を支援。



▲ NICTが活動した気仙沼消防署(防災センター)の外観

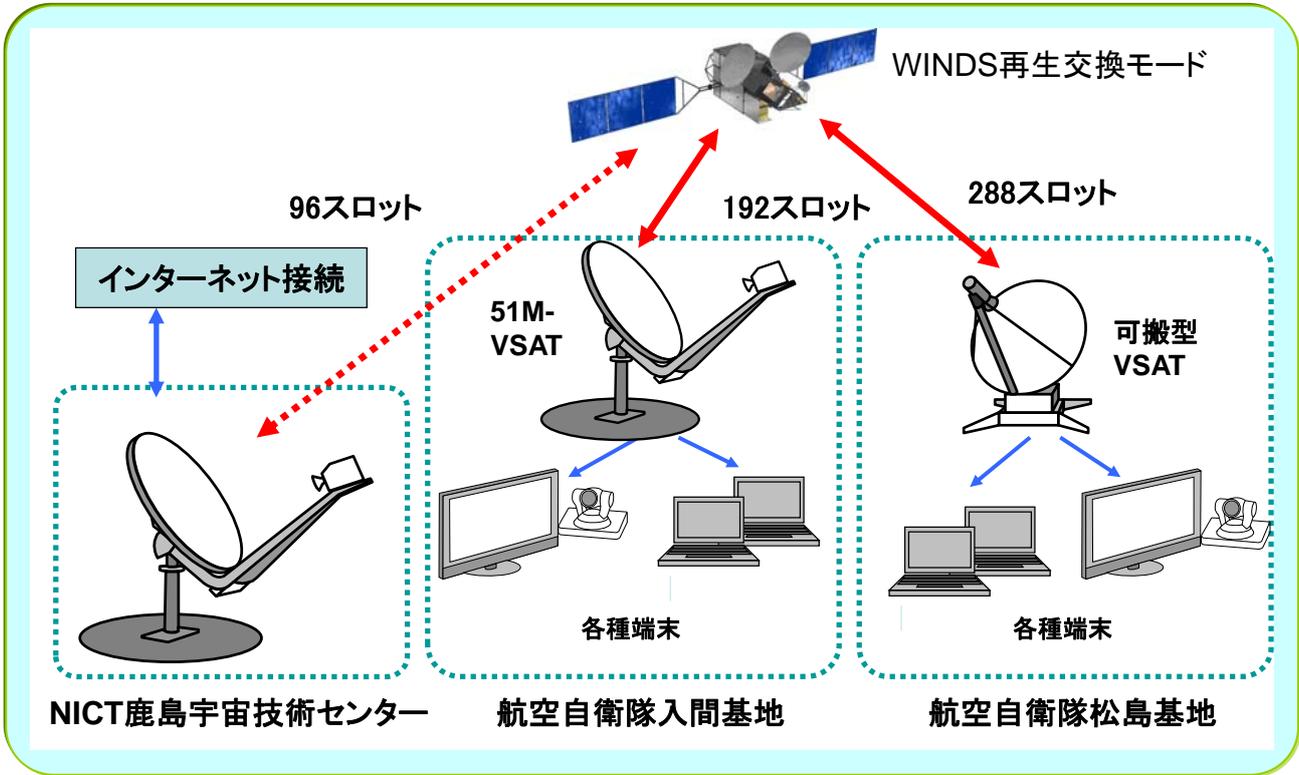


▲ 室内に設置したIDU



▲ 東京消防庁作戦室とのTV会議

災害派遣活動を行う自衛隊基地の支援



防衛省航空幕僚監部の要請により、松島基地及び入間基地に直径1メートル程度の小型の地球局設備を臨時に設置し、NICT鹿島宇宙技術センターに設置されている大型地球局とあわせて計3拠点を結ぶ仮設のブロードバンド通信網を構築しました



▲ 松島基地に設置した可搬型VSAT



▲ 入間基地に設置した51M-VSAT



▲ 災対本部南側の窓際は衛星携帯電話がずらっと並び、いつも非常に混雑。被災地では、救助・対策にあたる各組織とも衛星を頼みの綱としていたことがわかる。

